

# 農業体験農園開設の手引き

～新たな農業経営形態への挑戦～

< 農業体験農園ビジネスモデル育成資料 >

平成24年2月

農業総合試験場



## はじめに

本県では、平成16年4月に、将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保並びにその適切な消費及び利用、森林等の有する多面的機能の適切かつ十分な発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を施行しました。平成23年5月には「食と緑の基本計画2015」を策定し、平成27年度を目標年度として、市町村、県民、食料等の生産者などと連携・協力して様々な取組を進めています。本計画では、「農のある暮らし」の実践や「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」への取組を推進しています。その一つとして、全国的に広がり始めた新しい農業経営のかたちである『農業体験農園』を愛知県の都市近郊農業の振興方策として、推進していくことになりました。「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2015」においても、都市住民との交流により付加価値を創出する経営事例研究として、農業体験農園を研究対象としています。

農業体験農園には、都市近郊農業の維持・発展に奇与する機能として 経営の安定性の向上 地産地消の推進 都市住民と生産者の交流の場の提供などがあり、都市化の進展に対応した市民参加型の農業ビジネスモデルです。

農業総合試験場では、本県における農業体験農園ビジネスモデルの育成を目的とする「農業体験農園開設支援事業」の一環として、県内外の先進事例の調査・研究を行い、農業体験農園開設の手引きとして本資料を作成しました。

今後、県内で多くの農業体験農園が開設され、「農のある暮らし」の実践、「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」の発展の一助として、本資料を活用いただければ幸いです。

愛知県農業総合試験場長

伊藤 清一

# 目 次

第 1	農業体験農園に取り組む前に	1 ページ
1	農業体験農園について	1 ページ
2	農業体験農園と市民農園の違い	1 ページ
3	農業体験農園の利点	2 ページ
4	農業体験農園開設の留意点	2 ページ
第 2	農業体験農園の開設	3 ページ
1	農業体験農園のタイプ選択	3 ページ
2	農地の選択	3 ページ
3	体験区画型農園における区画、入園料、期間設定について	4 ページ
4	必要な施設等	4 ページ
5	用意する農具	5 ページ
6	開設までの手順	5 ページ
7	経営収支について	6 ページ
8	労働時間について	8 ページ
第 3	農業体験農園の動向	9 ページ
1	全国の動き	9 ページ
2	愛知県の動き	9 ページ
3	農業体験農園・市民農園の事例紹介	10 ページ
( 1 )	アグリパーク南陽(名古屋市港区)	10 ページ
( 2 )	風のがっこう(東京都練馬区)	13 ページ
( 3 )	百刃の里(東京都練馬区)	14 ページ
( 4 )	シェアファーム(豊田市御立町)	15 ページ
第 4	参考資料	16 ページ
1	写真で見る農業体験農園運営のポイント	16 ページ
2	開園スケジュール表	20 ページ
3	入園者募集例	21 ページ
4	契約書作成例	23 ページ
5	作付計画例、区画例	24 ページ
6	交流会について	27 ページ
7	施設整備に活用できる補助金等について	28 ページ
8	開設指導・運営委託について	30 ページ
9	農地の状況	31 ページ
10	参考文献	32 ページ

## 第1 農業体験農園に取り組む前に

### 1 農業体験農園について

農業体験農園は、平成8年に東京都練馬区で生まれた新しい農業経営の形態で、「練馬方式」と呼ばれています。

農業体験農園は、従来の市民農園のように農地を区画貸しするものではありません。あくまでも耕作の主体は農園主（開設者である農業者）であり、入園者（利用者）は農園主の指示（カルチャースクール的な講習会）にしたがって決められた作物の農作業を行う（体験する）ものです。

### 2 農業体験農園と市民農園の違い

	農業体験農園	市民農園
形態	農地の貸借を伴わない。入園者は一連の農作業を体験する。	小区画に区切った貸し農園で、入園者は全ての農作業を行う。
権利・貸借	農地所有者等が自ら耕作する農地で実施するため、農地の貸借はない。	貸借権、その他の使用及び収益を目的とする権利の設定を行い、区画を入園者に貸す。
関係法令	なし 農地所有者である農業者が営営するものであり、農業委員会などの許認可は必要ない。	特定農地貸付法 地方公共団体、農場、NPO等が農業委員会の承認を受け、農地を入園者希望者に貸し付ける。 市民農園整備促進法 農地所有者である農業者が開設する場合でも農業委員会の認定が必要である。
主な特徴	農業経営は、農地所有者自らが行う。 農園主が講習会などを通じて入園者の指導にあたる。 作付けする種類や作業まで細かく指示する。 入園者は高品質の農産物が収穫できる。 収穫物は入園者に販売する。  入園契約は1年以内の短期間で行う。	農業経営とはならない。  農園主は入園者に指導しない。  作付けする種類や作業は入園者の自由にできる。 農産物の品質は入園者に委ねられる。  収穫物は入園者のものになる。ただし営利を目的としてはならない。 利用契約は5年以内とする所が多い。

### 3 農業体験農園の利点

#### (1) 開設者(農業者)にとっての利点

- ア 安定した農業収入が得られる。
- イ 農作業の平準化・省力化が期待できる。
- ウ 農業経営全体で労働力の調整ができる。
- エ 直売所向け農産物と組み合わせるなど多角経営できる。
- オ 農園に対する入園者の評価が直接伝わるため、やりがいがある。
- カ 相続税納税猶予制度が受けられる(個別に税務署の判断が必要)。
- キ 地域住民の農業理解が醸成できる。

#### (2) 入園者にとっての利点

- ア 「農のある暮らし」として充実した余暇活動ができる。
- イ 説明会や講習会などで農作業や農業技術並びに地域文化などに触れられる。
- ウ 同じ作業を行うので、入園者同士に共通する話題が増え、交流が活発になる。
- エ はじめての人でも高品質の農産物が作れる。
- オ 農家や他の入園者との交流ができる。
- カ 新鮮で安全・安心な農産物を取得できる。
- キ 農作物本来の味・旬の味が楽しめる。
- ク 農機具を揃えなくても良く、手ぶらで入園できる。

#### (3) 地域にとっての利点

- ア 農業振興・農業後継者確保など地域農業の取組発展が期待される。
- イ 多面的機能を有する農地の保全がはかられる。
- ウ 農地の管理が行き届き、景観が保たれる。
- エ 市民同士が交流する場が増える。
- オ 市民農園を補完する機能がある。
- カ 地域住民の農業理解が期待できる。

### 4 農業体験農園開設の留意点

#### (1) 開設者(農業者)にとっての留意点

- ア 入園者への指導等にかなりのエネルギー(情熱)、辛抱強さを要する。
- イ 農業体験農園をやる信念がないと維持・管理することは難しい。
- ウ 入園者との「人間関係」を良くする努力が必要である。
- エ 時間や作業などがある程度束縛される。
- オ サービス業の要素もあるので農業とは別の経営努力(下記)も必要である。  
個性を活かした特徴ある農園作りに努める発想。  
有機質肥料使用、低農薬、無農薬など消費者ニーズの高い環境に優しい農業の実現を目指す姿勢と努力。  
おいしい品種や伝統野菜を選択する目。  
入園者に対して農業のPRなど情報提供を行い、農業理解の醸成に努める情熱。  
横断的な情報交換と研究をおこたらない姿勢。

- ( 2 ) 入園者にとっての留意点
  - ア 決まった講習・説明会に出席しなければならない。
  - イ 好きなものを自由に作ることができない。
  - ウ 農作業は農園主の指導によるもので制約を受ける。
- ( 3 ) 地域にとっての留意点
  - ア 開設に向けた計画時にまとめ役(コーディネーター)としての役割が必要である。
  - イ 農業体験農園の円滑な運営のための支援・協力が必要である。

## 第2 農業体験農園の開設

### 1 農業体験農園のタイプ選択

農業体験農園には次の から の作業・収穫のタイプがある。体験区画型：農地を区画に区切り、入園者がは種・植え付けから収穫まで一連の農作業を体験する方式で、農業体験農園の多くはこの方式である。見た目では市民農園との違いがないので、自作地としての実態を明確(年1回は、自ら全面耕起)にする必要がある。作目集中型：小面積の農地で、畑毎に作目を統一して農地利用を行う。入園者に提供する作業は、個別に行う方式と、共同作業方式がある。共同作業・個別収穫型：農地を区切らずに、入園者が共同で一連の農作業を行い、収穫段階で、収穫する範囲を個別に指定する方法である。共同作業・共同収穫型：と同様に作業し、収穫も共同で行い、取れた収穫物を入園者に配分する方法である。

栽培方式では、消費者のニーズが高い有機肥料による栽培や減農薬の取り組みや有機栽培、慣行栽培などを農園運営の理念に応じて選択する。

また農園の立地条件により、入園者の来園頻度(講習日以外)が変わることから、想定される来園頻度に応じて、作目を選択する。住宅地にある来園頻度が高い農園は、キュウリなど毎日収穫する作目が選択できる。しかし住宅地から離れた通園に時間がかかる農園は来園頻度が低いと想定されるので、芋類など収穫時期に一気に収穫できるものや根菜類など収穫適期が長い作目を選択し、入園者ができるだけ損をしないように工夫する必要がある。

その他消費者ニーズに応じて、高齢者などを対象とした福祉農園、PTAなどと連携した児童農園、未婚者を対象とした婚活体験農園、大企業の福利厚生部門と連携した従業員福祉向けの農園など、募集対象を絞ることで特色をつける方法もある。

以上のように立地などの条件や消費者ニーズに応じて農園のタイプを選択して、農園のコンセプト(基本概念)を作り上げると良い。

### 2 農地の選択

講習や休憩を行う場所の確保や将来増設することを考慮し、所有する畑地の中で一番広いところを水利条件なども考慮して選択する。また自動車での参加を許可する場合は、周辺の迷惑にならないよう、駐車するスペースの確保が必要である。

なお東京都の農業体験農園では、車での来園は禁止している。その他、道路との境をフェンスで囲うなど、盗難防止対策も考慮する必要がある。

### 3 体験区画型農園における区画、入園料、期間設定について

#### (1) 区画の大きさ

入園者の作業量、収穫できる農産物の量などから、都市部では、幅2.5～3m、長さ12～10mの概ね30㎡が利用しやすい。

#### (2) 区画数

当初1～2年は50～80区画を上限として始めると無理がない。農業体験農園に専門的に取り組むには120～130区画(50a)程度を目標とする。

#### (3) 入園料

農業技術の講習料、体験料及び収穫物の販売代金を合算して入園料を設定する。代金は入園契約の時に1年分徴収する。

収穫物の代金は、収穫量が契約で設定した基準以下の場合は、返金する。

参考：東京都練馬区では、10aで100万円の入園料収入になるように設定している。

・講習料、体験料、収穫物の代金 合計43千円/年間

・30㎡で取れる多種の農産物を小売り価格に換算すると、市価にもよるが4～8万円程度になる。

・講習料は、他のカルチャースクールの相場も参考にする。ある通信講座では、「新・園芸入門」26,800円(期間6か月、教材テキストのみ)、「コト菜園を楽しむ」24,800円(期間1年、教材テキスト、DVD2巻)であり、月2,000円から4,500円程度である。

設定例：収穫物代金10,000円 + 講習料月3,000円 × 11か月 = 43,000円

#### (4) 利用期間

市民農園との区別を明確にするため(納税猶予農地には必須事項)、年に1度園主が全区画を耕起し、作物の無い期間を作る。例えば契約期間を4月から翌年の1月末までとして、2～3月は、土作り、次作の準備期間とする方法がある。

一方、夏季はとても暑く害虫の多発生など営農上の障害が多いことから、9月開始で、7月末で区切る方法もある。

### 4 必要な施設等

#### (1) 入り口看板

農業体験農園の内容、システム、料金などの説明、PR用に設置する。

#### (2) 水道

かん水や収穫物を洗うための水道を設置する。井戸があればそれを使用する(要水質検査)。

#### (3) トイレ

入園者のためのトイレを設置する。設置場所に注意する(隣家や設置コストなど)。

#### (4) 農具庫

ビニルハウス(休憩所と兼ねる)や物置を農具庫として設置する。

- ( 5 ) 休憩所  
雨風を防げる休憩所(ビニルハウスなど)を設置する。
- ( 6 ) テーブル、ベンチ  
休憩用、イベント用に設置する。
- ( 7 ) 掲示板  
講習会の予定や農作物管理指導のための掲示板を設置する。
- ( 8 ) たい肥置き場  
車によるたい肥の直接搬入が可能で、臭気に配慮し、隣家から離れた場所に設置する。
- ( 9 ) ゴミ捨て場  
農産物の残さ(収穫遅れ農産物など)が多量に出るので、バックホーなどでほ場の一角を掘り下げたゴミ捨て場を設置する。ハエが発生することもあることから、隣家から離すこと。また、防護柵を設置するなど安全対策を施す。

## 5 用意する農具

名 称	必要数	参考単価 *	備 考
鍬	区画数の 1 / 4	980 円 ~ 6,480 円	農作業経験が無くても扱いやすい、軽量なものを用意する。
スコップ	区画数の 10 ~ 15%	980 円 ~ 2,379 円	入園者に馴染みの農具で、人気がある。
移植ごて	区画数の 1 / 4	148 円 ~ 198 円	
草かき	区画数の 10 %	1,980 円 ~ 3,963 円	三角ホーなど。
ジョウロ	区画数の 10 %	448 円 ~ 580 円	
バケツ	区画数の 10 ~ 20 %	298 円 ~ 398 円	
鎌	区画数の 10 ~ 20 %	198 円 ~ 546 円	
フルイ	区画数の 10 %	700 円	
噴霧器	区画数の 10 %	2,980 円	1 畝程度の噴霧器を用意する。
農薬タンク	2 個	16,920 円 ( 100L、バルブ込み )	区画数を考慮し、20 ~ 100 畝のタンクを用意する。

\* 名古屋東部地域のグリーンセンター及びホームセンターの家庭向け農具実勢価格。

## 6 開設までの手順

- ( 1 ) スケジュール表の作成  
開園までの行程をスケジュール表で管理する。

( 2 ) 入園者の募集

農園の周辺を中心にチラシなどを配布し募集する。申込み方法は、往復はがきを利用する。

( 3 ) 説明会場の確保

公民館など公的な場所を借りる。

( 4 ) 入園者の決定

近隣者を中心に抽選等により決定する。

( 5 ) 抽選結果の通知

決定者には、説明会の案内を出す。

( 6 ) 説明会の開催

農業体験農園の説明と申込み契約、入園料の集金を行う。

7 経営収支について

( 1 ) 理想的な農業体験農園経営モデルの試算

( 前提条件：30 a 以上の大区画ほ場、東京都練馬区など都市部での場合 )

農園利用面積	50 a
区画数	125区画 ( 30m <sup>2</sup> / 1区画、25区画 / 10a )
初期投資額	3,970千円 ( 井戸、トイレ、休憩所等整備費 )
収入	5,375千円 ( 入園料43千円 / 1区画 × 125区画 )
支出	1,997千円
所得	3,378千円

表 体験農園経営モデル経費の内訳 ( 125区画 )

項目	金額	備考		
農園あたりの変動費 (円/年)	1,451,000			
区画あたり変動費 (円/区画)	11,608			
種苗費	4,800	購入苗を利用		
肥料費	3,280	高度化成10kg、固形肥料4kg、苦土石灰8kg、ヨウリン8kg		
農薬費	400			
光熱動力費	400	電気、軽油		
小農具費	272	クワなど小農具17万円を5年更新		
通信印刷費	1,600	募集パンフレット印刷、講習会資料印刷、インターネット接続料、電話代、切手代		
諸材料費	856	支柱1区10本×350円を5年更新、マルチ10m×16m		
農園あたりの固定費 (円/年)	546,446			
区画あたり固定費 (円/区画)	4,372	取得費	利用率	耐用年数
格納倉庫 (スチール物置3棟)	160	300,000円	10/10	15年
ビニルハウス	114	200,000円	10/10	14年
井戸	160	300,000円	10/10	15年
トラクタ15ps (既存利用)	857	1,500,000円	5/10	7年
管理機 (既存利用)	286	500,000円	5/10	7年
軽トラック (既存利用)	800	800,000円	5/10	4年
仮設トイレ2室タイプ	1,714	1,500,000円	10/10	7年
パソコン	160	100,000円	10/10	5年
プリンター	40	20,000円	10/10	4年
フェンス	80	150,000円	10/10	15年

( 2 ) 従来経営 ( 露地野菜：ハクサイ、スイカ ) との比較

従来経営を経営面積50 a で経営すると収入が6,300千円、支出3,492千円、所得2,808千円であることから、農業体験農園にすることで所得向上が見込める。また市場価格の変動を受けないため、経営安定が望める。

時間労賃は、従来経営の2,064円 ( 労働時間1,585時間の場合 ) から農業体験農園5,630円 ( 労働時間600時間の場合 ) になり、時間あたりの所得が向上する。

(3) 規模別・入園料別の収支シミュレーション

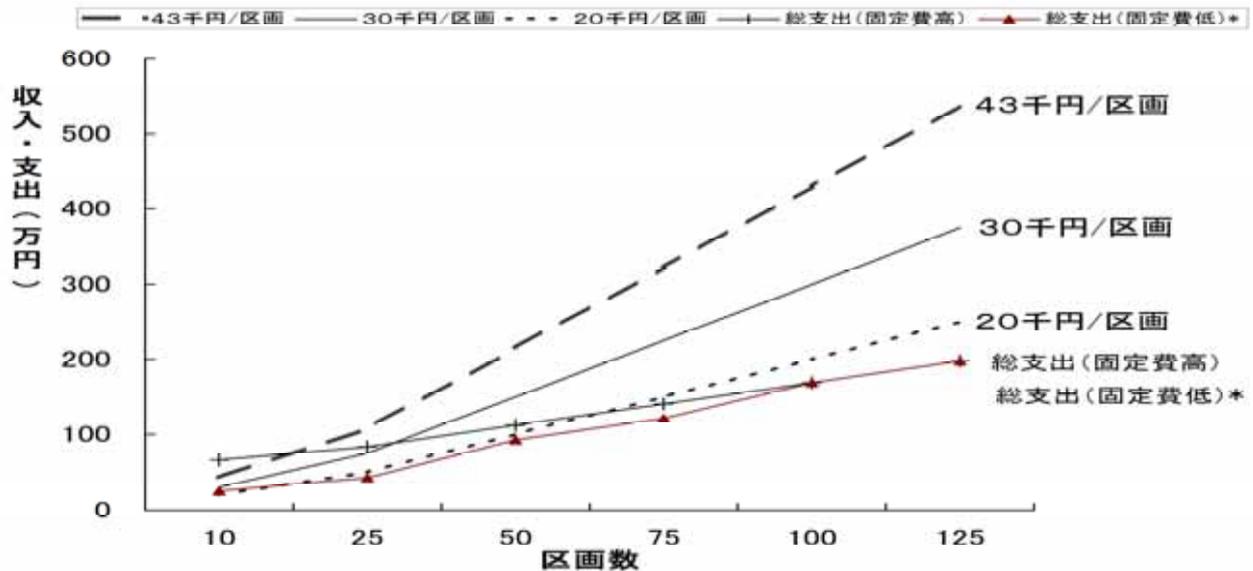


図 体験農園経営の損益分岐点 (30 m<sup>2</sup>区画の場合)

表 規模別経営収支試算 (30m<sup>2</sup>区画の場合)

農園利用面積(a)	12	22	30	50	
区画数	25	50	75	125	
設備投資額(千円)*	926	2,426	2,426	3,970	
入園料 43千円	収入(千円)	1,075	2,150	3,225	5,375
	支出(千円)*	424	925	1,211	1,977
	所得(千円)	651	1,225	2,014	3,398
入園料 30千円	収入(千円)	750	1,500	2,250	3,750
	支出(千円)*	424	925	1,211	1,977
	所得(千円)	326	575	1,039	1,773
入園料 20千円	収入(千円)	500	1,000	1,500	2,500
	支出(千円)*	424	925	1,211	1,977
	所得(千円)	76	75	289	523

上記図表の\*印は、固定費を低減したモデルとして下表の設備導入とした。図の総支出(固定費高)は、区画数の多少にかかわらず125区画用の設備投資をした場合である。

区画数		25	50	75	125	
設備投資額(千円)		926	2,426	2,426	3,970	
備品名	取得費(円)	耐用年数	経費算入率・数量			
格納倉庫(棟)	100,000	15	1棟	1棟	1棟	3棟
ビニルハウス	200,000	14	5/10	5/10	5/10	10/10
井戸	300,000	15	無	無	無	10/10
貯水タンク1000L	60,000	7	10/10	10/10	10/10	無
トラクタ15ps	1,500,000	7	2/10	2/10	2/10	5/10
管理機	500,000	7	2/10	2/10	2/10	5/10
軽トラック	800,000	4	2/10	2/10	2/10	5/10
仮設トイレ2室	1,500,000	7	無	無	無	10/10
仮設トイレ1室	360,000	7	無	10/10	10/10	無
パソコン	50,000	5	10/10	10/10	10/10	無
A4プリンター	6,000	4	10/10	10/10	10/10	無
高性能パソコン	100,000	5	無	無	無	10/10
高性能プリンター	20,000	4	無	無	無	10/10
フェンス	150,000	15	無	無	無	10/10
簡易フェンス	50,000	7	10/10	10/10	10/10	無

入園料の設定は、需要の多い金額とするか、比較的生活に余裕のある階層(高所得水準、高齢者)を狙った金額にするか、地域性、立地条件(都市、中山間)、経営の規模(区画数、区画面積)などにより判断する。しかし、区画30m<sup>2</sup>の場合で、入園料20千円とすると区画数の多少にかかわらず収益がほとんど発生しないことから、最低限30千円程度の入園料は必要と考えられる。図表のとおり、区画数が少ない場合(入園希望者が少ない場合)は、採算性に乏しいことから、当初の投資は最低限に止め、入園者募集を早期から開始し、需要を見極めてから追加投資すると良い。

## 8 労働時間について

主な労働は、講習会や交流会の時間やその準備にかかる。講習会や交流会を開くと、準備を含め1回あたり8時間程度の労働となり、年間25回行くと年間200時間となる。また農園の日常管理、ほ場の全面耕起・土作り、育苗や顧客管理等事務、ブログの更新などに時間がかかる。その他労働時間を月20時間程度（年間240時間）とすると、農業体験農園の経営全体で440時間程度の労働時間がかかる。

なお東京都練馬区の農業体験農園の講習会は、同じ内容を平日と土日に分けて4回程度開いて、多くの入園者が都合にあわせて、講習を受けられるように配慮している。年間17回の講習を4度行う方式で運営する場合、講習1回で16時間程度で、交流会（1回8時間）を年間3回行えば、講習会や交流会で年間約300時間程度の労働時間となる。育苗を含めたその他時間を240時間とすると農業体験農園の経営全体で540時間程度の労働時間はかかる。農業体験農園では、作る野菜の種類が多く、各種苗の育苗にかかる労働時間の割合は大きくなるので、労力に応じて、育苗を外部委託したり種苗店から購入すると経費はかかるが、園主の負担は大きく減る。

表 労働時間の事例（アグリパーク南陽）

単位：時間

作業名	月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
区画割り計画の立案		8												8
たい肥の準備	4													4
耕起、畝立て			8					8						16
区画割り作業			8					8						16
年間計画の作成			24				24							48
入園者募集、パンフ作成配布	8	16	4											28
説明会、入園契約、集金				6										6
講習会資料の作成と印刷	4	2	16	4	4	4	4	20	4	4	4	4	4	74
講習会の準備	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22
講習会	5	10		10	15	10	5	10	15	20	5	10		115
交流会企画・事前準備	2						2					2		6
交流会、片付け	6						6					6		18
病害虫防除					4	4			4	4				16
ほ場の見回り、管理	10	10		10	15	15	15	10	15	15	15	10		140
施設、道具の修繕、改良		4	4					4	4					16
インターネット情報の更新	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
入園者との連絡調整	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22
その他事務	4	4	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21
小計	49	60	67	40	45	40	63	67	49	50	39	31		600

概ね以上の労働時間は発生するが、収穫、調整、出荷にかかる時間は入園者が行う分、通常の露地野菜経営に比べ、農地面積あたりの労働時間は半分程度に省力化でき、経営全体で時間の余力ができる。また、露地野菜では、収穫期間に労働時間が集中するが、農業体験農園では、植え付けや栽培管理期間に重点指導、講習を行うことから、他作目部門との労働競合が発生しにくい経営部門である。このため既存の経営と合わせ易く、また労働時間に余裕ができることで、経営規模の拡大や施設園芸等の集約的な作目への転換、直売所の開設など新たな展開も可能となる。留意する点は、労働時間は、従来経営は面積に比例して増加するが、体験農園は区画数が増えてもそれほど変わらない。このことから、大きい規模の農園ほど労働効率が著しく高くなるが、その反面、小さい規模では労働効率が大幅に低くなる。

### 第3 農業体験農園の動向

#### 1 全国の動き

都市住民が土とふれあうなど、レクリエーションの場としての市民農園に対するニーズが高まっており、市民農園の開設数は年々増加している。開設されている市民農園の数は、平成22年3月末の時点で、全国で3,596農園にもなっており、18年前の市民農園数と比べると5倍以上になっている。農業体験農園は、市民農園とは違うが、都市住民の入園需要は、高くなっている。

農業体験農園発祥の地の練馬区（人口707千人）では、年1園ずつ開園しており現在計15園、1,770区画（1区画あたりの人口400人）開設されている。全国では107か所（全国農業体験農園協会加盟）の農業体験農園がある。愛知県と同様に園芸作物生産が盛んで、都市部から中山間地域がある福岡県では、農業会議組織や県、市町による組織的な普及により、急速に開園が進んでいる。平成19年に1か所、平成21年に2か所、平成22年に5か所、平成23年に9か所開設されている。1園あたりの平均で区画数は51区画、平均区画面積は27㎡、平均入園料は40千円である。また開設されている市町は、下表のとおりである。

表 福岡県の市町別農業体験農園数・区画数(左)と県内類似市町村(右)

市町村	農園数 / 区画数	区画あたり人口(人)	人口(人)	人口密度(人/km <sup>2</sup> )	類似市町村*	推定区画数	人口(人)	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
北九州市	3 / 89	10,948	974,335	1,997	安城市	49	178,197	2,072
福岡市	2 / 114	12,987	1,480,528	4,338	名古屋市	627	2,257,888	6,916
柳川市	1 / 65	1,090	70,856	922	岡崎市	104	373,527	965
筑後市	1 / -	-	48,548	1,160	瀬戸市	37	132,926	1,191
筑紫野市	2 / 80	1,257	100,547	1,145	豊川市	51	182,683	1,137
朝倉市	1 / 100	558	55,818	226	田原市	18	66,572	353
糸島市	1 / 200	490	98,067	454	田原市	18	66,572	353
宇美町	1 / 27	1,431	38,649	1,279	瀬戸市	37	132,926	1,191
久山町	1 / 60	139	8,327	222	飛島村	1	4,504	199
粕屋町	1 / 26	1,636	42,525	3,012	高浜市	12	44,274	3,406
水巻町	1 / 20	1,488	29,766	2,699	扶桑町	9	33,367	2,985
筑前町	1 / 32	910	29,128	434	南知多町	6	20,787	544

\*類似市町村は、主に人口密度による類似

\*推定区画数は、福岡県事例の区画あたり人口（市町）の平均 3,602 人を基に算出

#### 2 愛知県の動き

本県も2010農林センサスによるとレジャー型の事業に取り組む農業経営体数は、貸農園・体験農園等が164経営体、観光農園が129経営体で、2005農林センサスに比べて貸農園・体験農園等が86経営体（110.2%）、観光農園が53経営体（69.7%）それぞれ増加している。

県内で、練馬方式を参考にした農園は、名古屋市の農事組合法人アグリパーク南陽の農業体験農園や株式会社マイファームの体験農園、合同会社農力向上研究所の野菜楽園、商業施設なるばーく屋上のまちなか菜園、その他雑種地や宅地の遊休地を利用した指導付き貸し農園など様々な運営方法の農園が出てきている。

### 3 農業体験農園・市民農園の事例紹介

#### (1) アグリパーク南陽(名古屋市港区)

名古屋市港区南陽地区は、名古屋市内に3ヶ所ある農業振興地域の一つで、水田営農が盛んな地域であるが、80haの農地が市街化区域に編入されるなど都市化の進展が進んでいる。

農事組合法人アグリパーク南陽は、平成14年に地域農業を担う目的に設立された組織であり、県下最大規模の大型施設



(2ha)でトマト栽培、露地畑3.5haでブロッコリーなどを栽培している。愛知県で練馬方式を参考にした農園利用方式の農業体験農園は、当園が先駆けとなっている。

#### <開設の動機>

農業体験農園については、名古屋市が開催した研修会で、東京の練馬方式農業体験農園についての講演を聴講したことが農業体験農園の仕組みを知る機会となった。

当組合のブロッコリー等露地野菜部門の経営はパート雇用による労力では、雇用コストが高く採算が厳しい状況であったことから、地域で事業改善について話し合いを行っていた。その結果、雇用コストがかからず収益が期待できる露地畑の経営方式で、かつ都市住民との交流ができる方法として農業体験農園を選択し、平成21年から取り組み始めた。

#### <体験農園の運営全般>

開設にあたっては、名古屋市のふれあい農園開設事業(補助額:ほ場整備20万円以内、トイレ等付帯設備15万円以内)を活用している。初年度(平成21年度)の募集区画数は、50区画であったが、54組の応募があったことから54区画を整備して体験農園を開始している。平成22年度は100区画募集し83区画、平成23年度は130区画募集し75区画となっており、倍率は1倍以下となっている。入園者の住所地は、名古屋市内であるが、近在の住民は少なく、遠くは直線距離で約20km離れた名古屋市守山区から参加している入園者もいる。交通手段は自動車が主になっており、駐車スペースの確保が必要となっている。駐車は農道脇に駐車しているが、当組合の経営農地が農業体験農園と連担して広がっており、周辺農業者と交通トラブルは発生していない。継続入園者のリピーター率は約6割である。1区画の面積は、本地15㎡(通路等含む実面積で22㎡)で、全国農業体験農園協会が示す標準区画面積30㎡の半分で整備している。なお区画以外に、募集で余った農場に共同ほ場を設けて、ジャガイモ、サツマイモ、スイートコーンなどを栽培しており、平成23年度の農業体験農園事業全体の利用農地面積は50aとなっている。入園料は1区画25,000円(4月から翌年2月末)で、協会

が示す標準入園料の43,000円より安く設定している。これは、名古屋の土地柄で、4万円の入園料では入園者が集まるか不安があり、安く設定したものであるが、区画面積当たりではほぼ同等である。実際入園の応募状況では、近くの名古屋西部よりも遠くの新興住宅地である名古屋東部方面で応募すると反応が多い傾向がある。

< 設備・農具とその投資額 >

開設にあたって用意した設備・農具の内、全面耕起に使用する農機（トラクター）は既存の組合所有物を利用している。設備は、農業振興地域農用地であることから移動可能なものに限られている。主要な設備は、工事現場やイベント会場などで利用されるポータブルトイレが2個、家庭用スチール製倉庫を利用した農具庫、その他海上コンテナ倉庫、直管パイプで作った休憩所、白板、用水施設、看板である。その他、机7脚や長椅子14脚、バーベキューコンロ、ドラム缶で作ったピザ釜、鉄製ゴミ箱を利用した石焼き芋釜は、廃材により、入園者がボランティアで製作したものである。

農具は、平くわ、備中ぐわ、三角ホー、スコップなど次表のとおり用意している。農具は、ホームセンター等で購入している。

表 アグリパーク南陽農業体験農園の小農具と参考価格

農具名	数量	区画に対する割合	参考単価・参考総額
備中ぐわ	6	8%	1,580円・9,480円
平くわ	30	38%	980円・29,400円
三角ホー	30	38%	1,980円・59,400円
スコップ	11	14%	980円・10,780円
ピッチホーク	2	3%	1,980円・3,960円
レーキ、土ならし	2	3%	1,580円・3,160円
バケツ	80	100%	298円・23,840円
ジョウロ	13	16%	298円・3,874円
ねじり鎌	30	38%	498円・14,940円
草刈り鎌	30	38%	198円・5,940円
移植ごて	30	38%	148円・4,440円
		合計	169,214円

注) 参考単価の農具は、使用頻度を考慮し、家庭向け製品を選択した。

単価は、名古屋東部地域のホームセンター及びグリーンセンター実勢価格を参考とした。

< 入園者の募集方法 >

入園者の募集は、チラシを4,000部（印刷経費4～5万円）を印刷し、クチコミ用に入園者に配ったり、周辺の飲食店やファーマーズマーケットなどに置きチラシをしている。置きチラシなどに使い切れない残部は、新聞の折り込み（折り込み料1枚4円）を行っている。また新聞と一緒に配られる地域情報紙に体験農園の記事掲載を働きかけ（パブリシティ）を行い、記事にしてもらうことでも募集している。

（\*パブリシティ：無料の広報活動。客観性のある記事で消費者の信頼性が高い。）

< 野菜栽培及び講習会、交流会 >

栽培する野菜の種類は、25品目程度を目標に作付をしているが、家庭菜園の人気作目であるトマトについては、トマト黄化葉巻病の組合の施設栽培への発生防止を優先するため作付していない。農薬は、最低限使用しており、散布は園主が主に行っている。入園者は、定植前後の粒剤散布のみ指示により行っている。発生する害虫は、ヨトウ類やアブラムシ類が多い。前作に雑草が多かったところなどでは、ネキリムシの被害が目立つ場所もあるが、被害が出てからではネキリムシの防除は難しく手で捕殺している。病気では、水田地域で地下水位が高くなっている関係で、地下部の病害がやや多くなっている。特に夏作は青枯病、秋冬作はアブラナ科野菜特有の病気であるネコブ病が発生し問題となっている。また盗難による被害が発生しており、今後都市化の進展とともに被害の増加が心配される。栽培に関する経費は種苗に20～30万円、土作りのたい肥や肥料に4万円ほどかかっている。たい肥には、地域資源の馬糞、ワラ、籾殻を利用している。

講習会は年間25回（含む交流会3回）の講習プログラムを組んで行っている。主に日曜日に午前の部、午後の部と同じ内容を2度実施している。1回あたり2～3時間かかっているが、講習は、作業内容などを解説するA4用紙1枚程度の資料を元に15分程度行い、残りの時間は、農園の見回りや入園者の質疑に答える指導時間となっている。講習会及び交流会にかかる直接的な労働時間は、1つの指導プログラムに6時間かかるとし、試算すると年間150時間である。その他労働時間は、ブログの更新や講習準備、ほ場・設備の管理時間で年間450時間程度かかる。

交流会は、事業の主要な目的である都市住民との交流（体験農園コミュニティの形成）を重視する観点から、7月下旬、11月中旬、1月中旬の計3回行っている。内容は、会食で、流し素麺やバーベキュー、ピザ焼きや石焼き芋、豚汁、ゆでトウモロコシなどを園主側が提供している。食材は、農園の共同ほ場で採れる野菜の他は、業務用スーパーから安価な食材を調達している。経費は、各回2万円として、3回で計6万円の予算で実施している。調理・配膳は、入園者が自主的に行い、園主は適時指示や料理の案内を行っている。なお飲料は、主に入園者の自宅からの手持ちである。

#### < 付帯事業 >

##### 直売事業

本業であるトマトや地元の米を講習会の合間に入園者に販売している。トマトは1kg程度入り、米は2kg入りを販売している。

##### ビオトープ

交流事業の一つとしてビオトープを整備し、入園者に開放している。夏のザリガニ釣りに使用され、小学生などの児童に人気がある。ボランティア事業で、収益は発生しない。

##### サポーター農園事業（援農事業）

入園者の中から本格的な農業体験を行いたい人を援農サポーターとして、露地野菜（ニンジンなどを約1ha）の栽培を手伝ってもらっている。作業内容は、園主が指示し、農作業全般をサポーターが行っている。

##### 福祉農園、学童農園

福祉団体や幼稚園、ボーイスカウトなどからの要請で、農業体験を受け入れている。

(約10a)

< 周辺事業 >

名古屋市高年大学鯉城学園実習ほ場

農業体験農園に隣接し、高年大学の实習ほ場が設置されている。

都市型農建連携 アグリ事業 新興連携体(国「建設業と地域の元氣回復助成事業」助成事業はH22年終了)

建設会社(東海建設等)の自主事業により隣接ほ場で試行的に、ブル・ベリーの摘み取り体験(観光農園)が実施され、入園者も自主的に参加した。(H23年度)

田んぼアート(茶屋新田地域資源保全隊(布目勝会長)、県、名古屋市)

(国「農地・水・保全管理支払交付金」)

入園者(希望者)が田んぼアート製作に参加し、農業体験(田植え、稲刈り)を実施している。

(2) 風のがっこう(東京都練馬区)

平成9年4月開設で練馬方式による2番目の事例である。経営面積130aの内50aで農業体験農園を行っている。農園のほ場は、1筆にまとまっている。区画は2.1m x 14.2m / 1区画で、区画数は124区画である。入園は、3月下旬からで、5年まで更新可能としている。

主要な設備は、水道、水洗式簡易トイレ1台、ビニルハウス(30人程度座れる講習会場、農具庫)、農園案内看板、白板、机、長椅子、洗い場である。ビニルハウスは、小さめだが、講習会は主に日よけがある外で行い、90人程度分の長椅子が設置してある(6a程度の産直野菜生産用の鉄骨ハウスが、隣接してあり、雨天時講習人数が多いときは講習会場として利用可能である)。小農具・資材は、ジョウロ、バケツ、平くわ、誘引用支柱などである。

特徴的な所は、標準的な区画(3m x 10m)に比べ区画を細長くしている。これは、畝の数を増やし(10~12畝)、ローテーション栽培や1畝中の作物の種類を統一することで栽培管理を容易にする工夫である。また稲作体験として、長野県までバスで田植え、稲刈りのツアーを企画している。

講習会やその準備などの総労働時間は、年間で約500時間である。体験農園事業の所得は約350万円であるとのことから、時間当たりの所得は約7,000円となり、効率的な経営形態となっている。

< 付帯事業 >

他作物(80a)は、露地野菜と一部施設野菜を多品目栽培し、JA直売所などで産直



野菜として販売。練馬ダイコンの沢庵製造や鶏卵の生産直売も行っている。

ブルーベリー摘み取り園も行っている。(練馬がじゅあるファーム白石農園)  
イタリアンレストラン「La毛利」

2007年に農場の脇に開設。運営は、入園者のシェフが行う。レストランの土地・建物の賃借料で投資額を回収している。

2003年にNPO法人「畑の学校」を設立し、小中学生の農業体験を受け入れている。

### (3) 百刃の里(東京都練馬区)

平成18年4月開設。園主の加藤正明氏は、農業体験農園を開設するため、会社員を辞めてUターン就農している。経営面積75aのうち、35aで農業体験農園を行っている。その他エダマメ20a、カリフラワー20aを作付けている。体験農園のほ場は1筆にまとまっている。区画は3.3m×9m/1区画で、86区画ある。1区のうちうね数は、7~9畝。入園は、3月上旬からで、5年まで更新可能としている。



運営方針は、「おいしい野菜を提供する」をかね、土づくりにこだわり、うまみや甘みのある品種を選択している。

講習は年間17回の講習プログラムを組んで行っている。講習会は、木曜日、日曜日の午前、土曜日は午前と午後の4度、同じ内容で行っている。雨天決行で行うが、多雨の時の農作業は、土をこねたりするので禁止している。



入園者は、区外の人も入園可能としており、遠い人は大田区から2時間かけてくる。入園者の年齢は、40~50歳が6割、60歳以上が3割。60歳以上の方は木曜日の講習に来る人が多い。イベントは、収穫祭2回、年末もちつき大会、陶芸教室を行っている。陶芸教室は、入園者が実施しているものである。

病虫害防除は、病気の発生源となる根など残渣は全て取り除いている。残渣は縦横1.5m深さ1.2mの穴に入れ、たい肥化することで減容し、土作りで再利用している。たい肥化を促すため、太く固い茎などの残渣はなるべく小さく切り、石灰を入れている。植物保護する散布剤としてニンニク+木酢、焼酎+鷹の爪を週1回使っている。1作あたりの化学農薬の使用は、本ぼで3回くらい、苗場2回程度であり、登録作物の範囲が広い農薬を選択している。散布作業は、入園者が園主の指示で行っている。

入園者への連絡は、白板で行っている。これは農園に足を運んでもらい日々の管理をしてもらうためである。

農園開設費用は、約400万円(工賃込み)で、練馬区の体験農園の中では安い方である。工事は、造園業者が行い、区画割り(くい打ち)まで行うため、園主の自家施

行はほとんど無い。主要な設備は、水道、水洗式簡易トイレ2台（うち小便器1）、ビニルハウス（50人程度座れる講習会場、農具庫）、農園案内看板（主要設備で1番高額）、白板、机、椅子、流し台、洗い場である。小農具・資材は、ジョウロ17個、バケツ25個、噴霧器（ステンレス製4Lが4個、プラ製のスプレー8個）、平くわ33本、スコップ10本、移植ごて、誘引用支柱800本（2.1～2.4m）などである。支柱など破損しやすい資材・農具の使用は、入園者には破損したら弁償をお願いすると説明して、丁寧な扱い、整理整頓を指導している。

傷害保険は、万が一に備えて加入している。協会紹介の保険で全区画で年間1万円程度である。盗難は、年1～2回程度あるが、問題になるほどでは無い。

<付帯事業>

武蔵野市農業ふれあい公園農業体験教室

NPO法人むさしの農業ふれあい村を介し、80区画の体験農園の講師を行っている。

ハウス食と農と環境の体験教室・東京練馬

ハウス食品の社会貢献活動「食と農と環境の体験教室」に協力して、農業体験教室を実施している。

NHK 趣味の園芸やさいの時間

番組の撮影場所の提供、講師としてNHKの番組「趣味の園芸やさいの時間」に協力している。

(4) シェアファーム（豊田市御立町）

市民農園の新しい形で独創的な取り組みとして、シェアファームという農園がある。区画は35㎡/1区画が、14区画ある。基本的には、区画貸しの市民農園であるが、その1つの区画は、2つに区分されている。一つの区分は、通常の市民農園で収穫物は入園者本人が利用するものであるが、もう一つの区分のシェア区で栽培した収穫物は、入園者の全員が利用できる（シェアする）もので、「自分の作った自慢の農作物を他人に分ける喜び」を加味したことで、付加価値、差別化した市民農園である。その他収穫祭や農体験のイベントも行い、農業体験農園の要素も加味した運営を行っている。

1区35㎡

栽培管理作業や資材は、この区画の入園者が負担	
<p>収穫物は、入園者全員で共有（シェア）して利用可能。</p> <p>それぞれが変わった野菜をすることで、園全体で、色々な野菜を収穫できる仕組みでもある。</p>	<p>収穫物は、この区画入園者に帰属。</p>
シェア区	通常の市民農园区(プライベート区)

図 シェアファームの区画概念図

#### 第4 参考資料

##### 1 写真で見る農業体験農園運営のポイント



農業体験農園（練馬区）の全景  
（左：緑の散歩道） （右：百刃の里）



区画の様子。作業用通路は、区画面積に含めている。



区画で割っても、指定した作物を作るので、同じ作物が1列に整然と並ぶ。



看板は宣伝になるので、農業体験農園の魅力が伝わるような内容にする。多くの農園では、農園の顔となる看板に工夫している。



講習会では、作業内容を丁寧に説明する。実物を見せて、実演を行うと入園者にわかりやすい。



病害虫の見方をしっかり教えて、早期発見、早期防除できるように指導することで、被害を最小限にできる。



アブラナ科野菜は、生育初期に害虫の食害を受けやすいので防虫ネットを利用すると農薬の散布回数を減らせる。資材を使うことで講習内容も充実する。



トマトなど背が高くなる野菜は、支柱が長い方が収穫量を多くすることができる。土に埋める部分も考慮して、地上高2m程度の誘引ができるようにする。



農薬などの散布機は、簡易なプラスチック製のものと耐久性のあるステンレス製のものを使い分けるとよい。容量が少量のもので十分である。



バケツやジョウロなどかさばる農具は、棚に収納すると収まりがいい。



農具は、後で使う人のことを考えて、きれいに洗い、整理して収納するように指導する。野菜の運搬用にバケツを持参する入園者もいる。



掲示板は、入園者への指示や連絡、情報交換に使う。大きい掲示板が2～3枚程度必要である。



講習会場、農具置き場には、農業用パイプハウスが耐久性とコストに優れ、汎用性が高いので適している。天井部は、遮光遮熱素材とする。



トイレは簡易なものとし、目隠しとなるものがあると良い。また水道が無ければ、写真のようなタンクに浄水をためて手洗い用に置く。



農具や野菜の洗い場は、土が排水溝をつまらせないように、柵は大きく作る。コンテナに水をためて、そこで最初に土を洗い落とすと良い。



多量に出るの残さ(収穫後の茎葉など)は、ほ場の一角を1m程度掘り下げた所に集積し、石灰窒素などで堆肥化するとよい。



堆肥置き場と一輪車。一輪車があると一度に多くの堆肥が運べる。



都市部など盗難被害が出やすいところでは、農園の出入りに扉を設置したり、農園を垣根で囲うなどすれば、被害は減る。



素人の入園者でも指導どおり作業をすれば、立派な野菜が栽培できる。



市場出荷できないような野菜でも、入園者は収穫・利用してくれる。



サツマイモなどは、収穫祭などにあわせ、共同で収穫作業すると作業しやすい。



交流会には、家族総出で参加する入園者も多く、たくさんの人で賑わう。子どもから大人まで楽しめるようなイベントにする。



ピザは、入園者に人気で、焼き上がると長蛇の列ができる。



ドラム缶を利用した鍋用の釜。薪は廃材などがあれば経費を節減できる。



農園は広いので、流しそうめんも豪快に楽しめる。



交流会食材の収穫・洗浄、盛りつけ、調理は、入園者が行う。園主は、作業を指示する。



子どもの食農教育を目的とし、小さい子供と入園される方も多い。



野菜栽培だけでなく、水田農業の体験もあるとプログラムが充実する。



水田があれば、ビオトープを作り、生き物観察会を行うと農園・地域の魅力となる。